

第5回田部祭（5月22日）

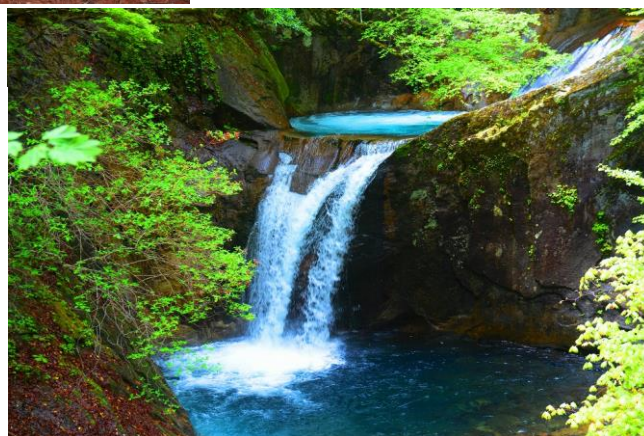
奥秩父をこよなく愛し、とくに笛吹川源流域を世に広めた登山家であり英文学者の田部重治の遺徳を忍ぶ「第5回田部祭」（碑前祭）が、新緑眩い5月22日に地元関係者やJAC山梨支部員が多数参加して厳かに開催された。JACの坂井広志副会長も急遽来訪された。式典では山梨市観光協会副会長・三富支部長の雨宮 巧氏の挨拶のあと、JAC山梨支部長が代表して献花した。

この田部祭は山梨支部が数年前に行政に開催を働きかけて実現したものである。西沢溪谷入り口の旧西沢山荘前に登山靴をイメージした大きな記念碑が設置されたのは30年ほど前。地元山梨市が田部重治氏のレリーフを制作してこの記念碑にはめ込み、田部重治氏の玄孫の田部泰一氏、高木晴雄山梨市長、JAC山梨支部員など多数が参列して除幕式を行ったが、これが第1回田部祭（2018年7月21日）である。

式典後JACでは毎年西沢溪谷を一周する慣わししているが、2年前の6月に超有名な「七つ釜五段の滝」近くの遊歩道が夕立で崩落して、この滝を間近で見ることができなくなった。ここから遊歩道へは西沢の急斜面に登山道が仮設されてはいるが、急勾配で滑りやすく通過する際には注意する箇所と思う。西沢右岸の旧トロッコ路を最奥まで足を延ばし昼食。右岸の遊歩道を下って、田部祭と遊歩道ハイキングという恒例の行事は無事に終わった。（山梨支部 北原孝浩）



田部文学碑の前で



紺碧！
西沢の連瀑